

八事山・牧野ヶ池緑地調査報告書

技術士(衛生工学部門、生物工学部門)
環境カウンセラー(事業者部門)

本 堀 雷 太

1. 調査概要

調査場所: 八事山(愛知県名古屋市昭和区)
牧野ヶ池緑地(愛知県名古屋市名東区)

調査日時: 平成27年7月3日(日) 10:00~15:15

天候など: 曇りのち晴れ

調査方法: ①目視による探索
②ルーペによる構造観察
③デジタルカメラによる撮影記録
④採取および標本作製

参加人数: 9名
(ジュニア会員2名を含む)

調査当日のタイムテーブル

10:00	八事山興正寺総門前に集合
10:00-11:30	八事山での調査
11:30-11:45	冬虫夏草標本の観察と解説
11:40-13:00	昼食
13:00-13:15	牧野ヶ池緑地へ移動
13:15-15:00	牧野ヶ池緑地での調査
15:00-15:15	粘菌標本の観察と解説
15:00-15:30	西垣座長の総評、事務連絡
15:30	現地解散



2. 調査活動の様子

2-1. 八事山での調査



釈迦牟尼大仏



興正寺本堂



東山本堂と不動護摩堂



粘菌の子実体を発見



粘菌の子実体を採取して標本を作製



粘菌の子実体を撮影



キシノウエトタテグモの巣を探索



キシノウエトタテグモの巣を発見



キノボリトタテグモの巣を探索



クモタケを探索



クモタケを発見



クモタケを発見

2-2. 牧野ヶ池緑地での調査



牧野ヶ池



緑地内の散策路



粘菌の通り道である切り株



カナヘビを捕獲



散策路での粘菌探索



切り株をチェック



粘菌の子実体を採取



粘菌の子実体の標本を作製



朽ち木の表面をチェック



粘菌の子実体を撮影記録



粘菌の子実体を撮影記録



ルーペで粘菌の変形体を観察

3. 調査結果

3-1. キシノウエタテグモ (*Latouchia swinhoei typica*) の巣

キシノウエタテグモの巣穴は斜面に対してやや下向き斜め方向に10cm~15cm程度掘り進められています。巣の内部は糸で裏打ちされており、入口には糸で紡がれた円盤状の“扉”が設けられます。扉は蝶番構造で、開閉が可能です。



扉が閉じた状態



扉が開いた状態



扉が閉じた状態



扉が開いた状態

【参考】キシノウエタテグモの写真



キシノウエタテグモ(♂)



キシノウエタテグモ(♀)

3-2. クモタケ (*Nomuraea atypicola*)

キシノウエタテグモを宿主とする子囊菌、いわゆる冬虫夏草の一種です。巣穴中のキシノウエタテグモに感染し、虫体を栄養分として菌糸を延ばして成長し、やがて宿主を死に至らしめます。そして梅雨時には、虫体から子実体(キノコ)が発生します。子実体は巣穴内部から外に向かって成長し、巣穴の扉を押し開けて地上数cmの高さまで伸びます。

クモタケの子実体は、白色の「柄部」と、その上部にある薄紫色で粉末状の分生子を多数つけた「シンネマ」から成っています。柄部の根本には宿主であるキシノウエタテグモが菌糸に包まれた状態になっています。



クモタケの子実体



クモタケの子実体



巣の扉を押し上げているクモタケの子実体



巣の扉を押し出して出てきたクモタケの子実体



巣の壁面が糸で裏打ちされている

巣穴ごと掘り出したところ



宿主(キシノウエタテグモ)

巣穴を開くと、溶けかけた宿主が見える

3-3. キノボリトタテグモ (*Conothele fragaria*) の巣

キノボリトタテグモは樹上に巣を作ります。樹皮の隙間や自ら樹皮を噛んで削った窪みの部分に長さ2~3cm程度の糸で裏打ちされた袋状の巣を作ります。巣の入り口に扉を設けますが、これはキシノウエトタテグモと同じく蝶番構造をしています。カモフラージュのため、巣の表面に苔や樹皮、土などを付着させているため、非常に見つけにくいクモです。

キノボリトタテグモも御多分に洩れず、生息環境の悪化に伴い個体数を減らしておりまして、環境省のレッドデータブックでは準絶滅危惧種 (NT) に、愛知県では絶滅危惧II類に指定されています。



ピンセットで扉を開いたところ



巣穴内部は糸で裏打ちされている



巣穴の入口は下向きである事が多い



巣は樹皮にカモフラージュされている



扉が閉じた状態



扉が開いた状態

3-4. 粘菌(変形菌)

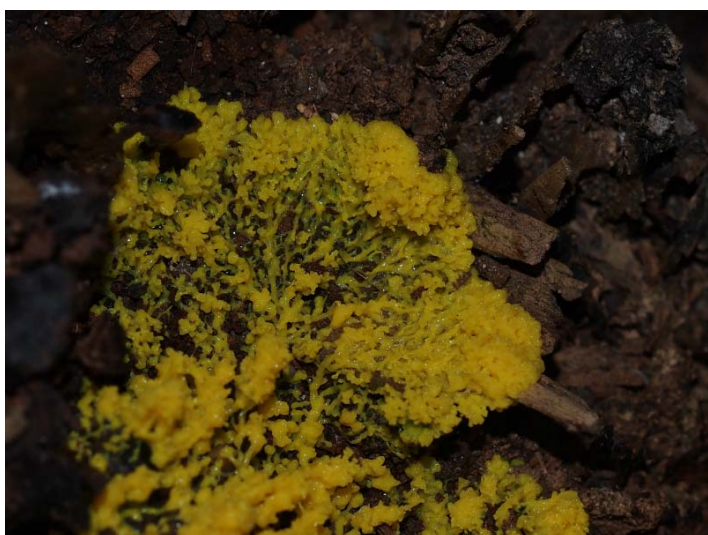
3-4-1. 真正粘菌



ススホコリ(*Fuligo septica*)の変形体



進行方向を拡大したところ



体を扇状に広げて進んでいきます



後部には、分岐した網目構造が見られる



ススホコリ(*Fuligo septica*)の子実体



甲虫に食べられているススホコリの子実体



シロスホコリ(*Fuligo candida*)の子実体



シロスホコリ(*Fuligo candida*)の子実体



アミホコリノ仲間(*Cribraria sp.*)の子実体



アミホコリノ仲間(*Cribraria sp.*)の子実体(拡大)



マルナシアミホコリ(*Cribraria piriformis* ver. *notabilis*)
の子実体



マルナシアミホコリ(*Cribraria piriformis* ver. *notabilis*)
の子実体(拡大)



ウツボホコリ(*Arcyria denudata*)の子実体



ウツボホコリ(*Arcyria denudata*)の子実体(拡大)



シロウツボホコリ(*Arcyria cinerea*)



シロウツボホコリ(*Arcyria cinerea*) (拡大)



サビムラサキホコリ(スミスムラサキホコリ)
(*Stemonitis axifera* ver. *smithii*)の若い子実体



サビムラサキホコリ(スミスムラサキホコリ)
(*Stemonitis axifera* ver. *smithii*)の子実体



コモチクダホコリ(*Tubifera dimorphotheca*)の若い子実体



コモチクダホコリ(*Tubifera dimorphotheca*)の子実体



マンジュウドロホコリ(*Enteridium lycoperdon*)の老子実体



フンホコリ(*Lindbladia tubulina*)の子実体



マメホコリ(*Lycogala epidendrum*)の子実体



イクビマメホコリ(*Lycogala conicum*)の若い子実体
(※事前調査で発見)

3-4-2. 原生粘菌



ツノホコリ(*Ceratiomyxa fruticulosa*)の子実体



【参考】ツノホコリの子実体表面に形成された孢子



エダナシツノホコリ
(*Ceratiomyxa fruticulosa* var. *descendens*)の子実体



エダナシツノホコリ
(*Ceratiomyxa fruticulosa* var. *descendens*)の子実体(拡大)



タマツノホコリ(*Ceratiomyxa fruticulosa* var. *porioides*)
の若い子実体



【参考】成熟したタマツノホコリの子実体

3-5. その他



ヤマトタムシ (*Chrysochroa fulgidissima*)



コカブトムシ (*Eophileurus chinensis*)



キマフリ (*Piesiophthalmus nigrocyaneus*)



コシロシタバ (*Catocala actaea*)



カマキリの仲間



コガシラアワフキ (*Euscartopsis assimilis*)



ヒモワタカイガラムシ (*Takahasia japonica*)



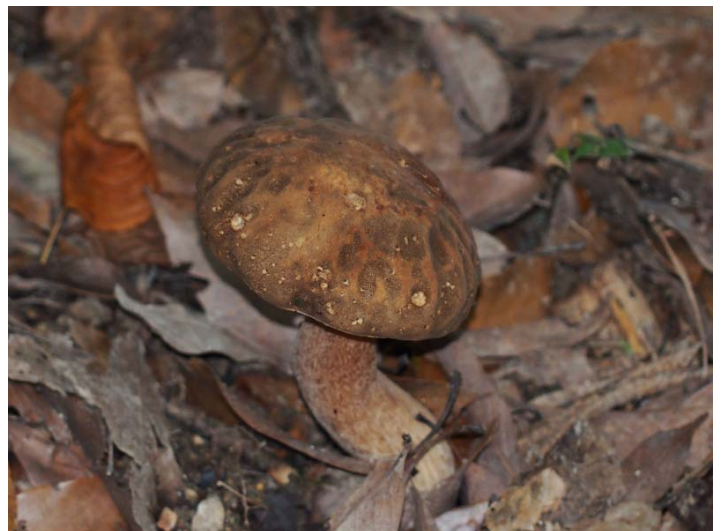
ヒモワタカイガラムシ (拡大)



ニホトカゲ



ミスジコウガイビル



以上